

今を未来に

2月10日(火)～20日(金)リサイクル品を集めました。

委員会活動として、リサイクル委員会の子どもたちが中心となって、先日までリサイクル品を回収する呼びかけを行っていました。今回呼びかけたリサイクル品は、ペットボトルとそのキャップ、アルミ缶、ベルマーク、インクカートリッジ、エコパックン3号の新聞・チラシでした。いつもと違う所は、各クラスで一度回収して、各クラス単位でどのくらい回収できたかがわかるようにしてくれたことです。

アルミ缶は四日市博物館で行われるアルミ缶アートで利用され、ペットボトルのキャップはワクチンを贈ることに利用されます。また、インクカートリッジとベルマークはPTA活動で行っていただいていることと協同して、点数に合わせて大縄やボール、一輪車などの購入に役立ててもらっています。

学校全体では、ペットボトルが723本、キャップが12,261個、アルミ缶が1,232個だったそうです。1万個を超えるキャップの数に驚きました。インクカートリッジやベルマークは普段から回収する箱が置かれています。「エコパックン3号」も昇降口横に置かれています。こつこつと継続することが大切ですね。これからもご協力ください。



2月14日(土) 6年生人権まちづくり講座第2弾

「あつまろうつながろう保々の町」を合言葉に、保々地区人権まちづくり講座第2弾が行われ、たくさんの6年生児童が人権学習の発表をしてくれました。予定では11:00から30分程度とお知らせしていましたが、10分ほどオーバーしてしまいました。そこは反省するところですが、子どもたちが1月31日の土曜授業で発表をしたことをもとに、話し合いを深め、伝えたいことを絞っての発表でしたので、そこはお許しください。

自分たちが人権学習で学んだことを伝えるだけでなく、自分の見つめ直しや、何が自分にできることなのか、自己判断力をつけること、差別に対し自分事として向き合う決意などが伝えられました。また、何を伝えていくかを話し合う中で、本気で自分たちがつながっていないと気づき、つながりを持たせたことを発表した班もありました。

一步一步、卒業に近づいている子どもたちの姿であったと思います。おしかったのは、緊張からか声がふれあい会館の広さと人の多さに負けてしまい、聞き取れなかった子もいたことでした。大切なことであっても、声が小さいと相手には伝わりませんから、卒業式時には体育館中に響くしっかりした声が出せると期待しています。



第3回学校づくり協力者会議

2月6日の授業参観・懇談会にご出席いただき、ありがとうございます。3学期の懇談会はその寒さもあって、なかなかご出席いただけないことが課題となっています。今年も、非常に厳しい寒さが残る中での懇談会でしたので、出席者数は多くはありませんでしたが、人数が少なかったことを逆にプラスとして、子どもたちの学校や家庭での様子について、保護者の皆様の考えや悩みを

聞かせていただくことができたと聞いております。

また、同時に第3回学校づくり協力者会議を開催していただき、学校運営や子どもたちの様子について、学校評価アンケートの結果などを資料として、ご意見をいただきました。

主なご意見は以下のように集約をさせていただきました。

- ・学校が楽しいと言うようになった。今年になって学校のことをよく話してくれる。担任の先生の話がよくわかると言っています。先生との関係はとても大切です。
- ・学校評価のアンケートは聞き方によって結果に違いが出てくるようなので、児童・保護者が答えやすくなる聞き方を今後も考えていってほしい。
- ・いじめやなかまはずしで、ないと答える子も多いが、5%の子が「ある」と答えている。そこを見逃さないでほしいし、委員としてはそこが心配である。

⇒いじめに関しては学校評価アンケートとは別に、より具体的に、子どもたちの中でおこりそうなことを例にするような形でアンケートをし、それをもとに、休み時間を使って一人ひとりの子どもたちと担任が話し合う時間を設けています。

- ・読書の時間は十分なのだろうか。また、中学校へ進むと感想文も量が増える。「読む」「書く」の力を十分につけてほしい。

⇒読書量を増やすためには、家庭の協力も必要です。子どもが本を読みだしたらテレビを切る、親も一緒に読書をするなどが有効と聞いています。学校では委員会の本紹介や司書による支援（授業に関わる本を学級にまとめて貸し出すなど）を行っています。また、読書の時間の見直し、中学校舎から図書室へ移動しやすいように2階の渡り廊下の整備など、物理的支援も充実していきたいと考えています。

この他に、土曜授業の次年度の日程・内容変更や小学生の命に係わる事件が続いていること、ニュース報道やユーチューブなどが子どもたちに与える影響などについても相談をさせていただきました。

ちょっといい話①

先週風の強い日に、小学校の児童が誤ってプリントを大量に飛ばしてしまいました。北校舎と中校舎の間でしたから、プリントはあっという間に運動場に飛んでいってしまったそうです。そのことに気づいた伊藤真貴先生が一生懸命に「1000本ノック」を受けている気持ちで飛んでくる・飛んでいくプリントと格闘していると、中学2年生の生徒2名が中学校から急いで駆け付け、そのプリントを拾ってくれました。前日の雨で水たまりが残っていたので何枚かは水につかってしまったそうです。その中学生は「先生ごめんね。プリントが濡れてしまった。」と言って、拾ってくれたプリントを伊藤先生に渡してくれたそうです。その後、プリントを飛ばしてしまった子がお礼を言いに行くと、「大丈夫やに。今度から気を付けてね。」と返事をしてくれたそうです。その優しさにその子は涙が流れたそうです。さらに「泣かなくていいよ。」と優しく頭に手を添えてくれた姿を見て、伊藤先生の方が涙が出そうになったと聞きました。ありがとうね。

ちょっといい話②

3年生の子の掃除場所に視聴覚室東側の外があります。上にも書いたようにここは風通しがよく、この時期はとても寒くて、草抜きもつらい掃除場所です。その日私は運動場西側のどうしても水が溜まってしまう側溝を掃除していました。ふと顔をあげると3年生がブロック塀を降りた所にしゃがんでいるので「今日は寒いから仕方ないかなあ。」と思いながら、その子たちに「さあ、掃除をしようか。」と声をかけようと思って寄って行きました。すると、近くにあった木切れを使って、深い根の草を抜いてくれていました。私はスコップを持っていたので、「手伝うよ。」と言って、根っこごと抜けるようにぐいと掘り返しました。深い根がやっと抜けて、大喜びしてくれる3年生でした。その後チャイムが鳴って教室へ帰るとき、その班の子が私の所へ来て「校長先生！ありがとうございました。」と、声をかけてくれました。「こちらこそありがとう。」と返事を返しました。普段の生活の中で「ありがとう」が見つかるのが嬉しいです。